

伝統的工芸品「内山紙」の製造工程

—「内山紙」をめぐる地元小学生との協働学習に関する基礎知識—

小林 比出代

1. 本研究⁽¹⁾の背景と目的

書道における文房四宝（筆・墨・硯・紙）を長野県の伝統産業ないしは文化遺産との観点から探究する実践研究例として、2015（平成 27）年度に、国語教育コースの学生が長野県知事指定伝統的工芸品「龍溪硯」^{りゅうけいすずり}に関する研究調査を行い、実際に龍溪石の原石を用いて龍溪硯を制作した⁽²⁾。今年度は、「紙」にまつわる実践研究として、奥信濃（飯山市）で作られる和紙、経済産業大臣指定伝統的工芸品「内山紙」をとり上げる。

内山紙は、中国から美濃地方に伝来した紙漉きの技法を美濃国で習得した萩原喜右エ（現 下高井郡木島平村内山出身）が、1661 年郷里に戻り自家で漉いたことに始まるとされる。原料には 100%楮を用いており、特徴として、しなやかかつ強靱であること、通気性や通光性、保温性に優れること、ふっくらとしており日焼けしにくく長持ちすること等が挙げられる。こうした特徴は、冬場に「雪さらし」との技法により繊維を漂白すること、薬品を使わず風土に適した技法で漉くこと等に起因すると考えられている。

内山紙製造の地元である飯山市瑞穂地区の飯山市立東小学校（全校児童 46 名）では、内山紙が児童にとって日常のものであると同時に、貴重な伝統産業及び文化遺産でもあるとの見識を育成する取り組みを行っている。その一つとして、毎年 6 年生が、内山紙伝統工芸士 阿部一義氏・拓也氏（阿部製紙）の御指導のもと、東小学校で育てた楮を用いて、内山紙を仕上げるために必要な作業を行った上で、自分の卒業証書を自身で漉いている。

本研究は、国語教育コースの学生が、内山紙の歴史や現状を明らかにする一方で、地域の誇るべき文化遺産を様々な形で伝承しようと試みる地元小学校の児童達の在り方を調査探究することを目的とする。本論考では、そのための基礎知識として、内山紙の製造工程についてまとめる。

2. 内山紙の製造工程

2017(平成 29)年 10 月 14 日(土)に、阿部製紙へ書写書道教育研究室の学生と一緒に伺い、阿部一義氏から、内山紙の歴史／内山紙の紙質／楮の生育から内山紙誕生への変遷／内山紙の現在等についてご教示いただいた。また、製造された内山紙の特質を考察した上で、楮から内山紙完成までの工程を調査し、阿部一義氏・拓也氏にご指導いただきながら、実際に内山紙の製作を試みた。

以下に内山紙の製造工程を列記する。(そのうち、ゴシック体斜字で表記した工程は、東小学校の児童と当該の学生が実際に行った活動を示す。)

- 1 **楮の刈り取り** 育った楮(※東小学校の場合、自校で育てた楮の木)の株元から枝を刈り取る。
- 2 **蒸煮** 刈り取った楮の原木を和釜で煮る。
- 3 **皮剥ぎ** 蒸した楮の皮を剥ぐ。
- 4 **黒皮乾燥** 天日で乾燥させる。
- 5 **凍皮** 楮の皮を水に漬けた後、夜間に雪の上へ放置して凍らせる。
- 6 **皮かき(ふしとり)** 凍結させた表面の黒い皮やキズを削り取る。
- 7 **雪さらし** 縄に編みつけた楮を雪の上へ並べて、その上に薄くまばらに雪をかけ、1週間ほど天日にさらしておく。
この工程により内山紙の特徴の一つ、自然な白さが生まれる。
- 8 **白皮乾燥** 天日で乾燥させる。
- 9 **水漬** 水に漬けておく。
- 10 **煮熟** 皮を灰の灰汁で煮る。
- 11 **灰汁抜き** 煮た皮を一晩水にさらす。
- 12 **水洗**
- 13 **漂白** さらしこで漂白する。
- 14 **ふしひろい** 枯皮、ゴミ、ふし等を清水の中できれいに取り除く。
- 15 **打解(叩き)** やわらかくなった楮の繊維を臼(打解機)で突いて解きほぐす。
(※東小学校の児童と当該の学生は、金槌や木槌を用いて行った。)
- 16 **玉造り** 打解した楮の皮を約 1 kg の玉状に手で固める。

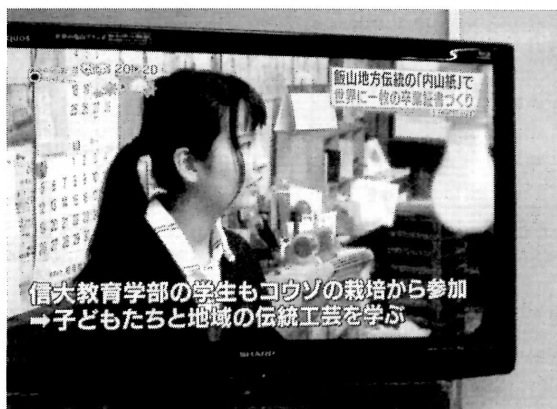
- 17 小振り 漉き船に水と「16」の玉とトロロアオイを入れて攪拌する。
- 18 漉き 「17」の紙の原液を簀苅すげですくい上げ、簀苅を縦横に振って水を払う作業を繰り返し、一枚一枚漉く。
- 19 圧搾 「18」で漉き上げた紙を圧搾機で脱水する。
- 20 小振り 鉄板で乾燥させる。

3. 補章 一本研究に関する補足資料—

本研究成果は稿を改めて発表する予定である。本論考においては、成果報告の一端として、報道にとり上げられたものに関し掲載する。

○SBC 信越放送「SBC ニュースワイド」2017(平成 29)年 11 月 30 日(木)

『飯山・世界で1枚! 特産の「内山紙」で卒業証書作り』放映



地域に学ぶ子ども

東小「内山紙」づくり 信大生も関心

飯山市の東小学校6学年(担任中村大・11人)が30日、瑞穂園の御阿部紙を訪れ、伝統工芸品の「内山紙」で自らの卒業証書を作成する。子どもたちは、瑞穂園の御阿部紙を訪れ、伝統工芸品の「内山紙」で自らの卒業証書を作成する。子どもたちは、瑞穂園の御阿部紙を訪れ、伝統工芸品の「内山紙」で自らの卒業証書を作成する。

同校では毎年、地域で受け継がれている伝統工芸品の「内山紙」で自らの卒業証書を作成する。子どもたちは、瑞穂園の御阿部紙を訪れ、伝統工芸品の「内山紙」で自らの卒業証書を作成する。子どもたちは、瑞穂園の御阿部紙を訪れ、伝統工芸品の「内山紙」で自らの卒業証書を作成する。



原材料育てて和紙に自分の卒業証書



阿部さんの指導を受けながら紙すきに挑戦する児童(上下)

た原料液をみ取って、揺すりながら厚さを調整。難しい工程は阿部さんが指導して完成させた。内山紙の学習体験は地域への理解を深め、つながっている。池田伊香(戸那)は「この良い紙をもっとみんなに知ってもらいたい」と思うようになった。また松村佳樹(戸那)は「皮むきなどのが大変だったと活動参加の返答に「和紙の良さは、ただ飯山の伝統工芸品でこれからは続けてほしい」と話していた。

大学生も一緒に活動



和紙づくりに使うトロロアオイにふれる大学生

信州大学では信州アカデミア事業「地域協働型研究」の一環として教育学部の学生5人が年度「郷土の伝統知を再認識するための地域運営の試み」をテーマに、飯山市と内山紙の製作に携わっている。学を指導する小林比呂代准教授は児童との共同作業や阿部さんからの学びを通して「書道で欠かさない紙を、一から勉強でき、子どもたちはこの木がこうやって紙になっているんだと興味を持ち、すごい感心することで地域のものに目を向けるきっかけになったと感じた」。また小学生の間、遠征で飯山を訪れ、紙すきを体験した荒井優人(同)は「改めて和紙を学んで、地域に残っていることを知ることができてよかった」と話していた。

- 1) 本研究「郷土の伝統知を再認識するための地域運営の試み 一飯山市の伝統工芸品「内山紙」をめぐる地元小学生と教育学部生との協働学習活動一」は、平成 29 年度信州アカデミア(信大 COC 事業)地域協働型研究・教育事業の補助を受けて実施した。
- 2) 小林比呂代(2016)「郷土の文化遺産を志向した書道教育の展開例 一長野県上伊那郡辰野町の「龍溪硯」に着目して一」『研究紀要 第 21 集(平成 27 年度)』(日本教育大学協会全国書道教育部門), pp.12-21.